

第1回豊明市総合計画審議会議事録

2026年8月17日（月）

午前10時～正午

豊明市役所新館4階 第1委員会室

1. 市長あいさつ

各方面から委員の皆さまにお集まりいただき、またお盆明けすぐのお忙しいところご参加いただき感謝申し上げます。この総合計画審議会は今年度開始した新しい総合計画の進捗管理をしていく会議体となります。昨年度までは3つに分かれていた委員会を統合しています。行政改革と総合戦略とそれぞれ委員会があったものを、計画自体を総合計画へ一本化し、進行管理を行う委員会も併せて統合しています。各方面の立場や皆さまの生活の中から気づいたこと、疑問に思うことなど、遠慮なく審議いただいてご意見をいただきたいと思います。

事務局（企画政策課長補佐）より資料1－1（豊明市総合計画条例）及び資料1－2（豊明市総合計画審議会規則）に基づき、審議会の役割及び委員の任期等について説明

2. 会長・副会長の選任等

委員自己紹介

会長選任 尾崎委員の推薦により、新沼委員が会長に選任される。

副会長選任 会長の指名により、松本委員が副会長に選任される。

会長・副会長あいさつ

3. 審議会の公開について

事務局（企画政策課長補佐）より資料2（審議会の公開等に関する取扱要領）に基づき説明

傍聴人7名

4. 議題

（1）第5次総合計画の総括について

事務局（企画政策課長補佐）より資料3に基づき説明

● 質疑

（渡辺委員）

参考資料2のめざすまちの姿23について、それぞれ市民と職員の指標を設けているが、市民の方が低く、職員の方が高くなっている。これは職員と市民とで認識の違いがあって目標が定められているのか。また、指標が多くある中で、基準値より悪化しているものの中で、重要度、優先度が高い項目があれば教えてほしい。

(市長)

職員は自ら予算を立てているため、それぞれ世代や性別への不公平感がないように取り組んでいるという感覚を持っているが、市民からすると市がやっている施策がどれぐらい自分の生活に反映されているのかは限られているため、以前から変わっていないのではないかという感覚がある。職員としては意識して取り組んでいるが、市民にはそこまでは行き届いていないというのが反省もある。

(事務局)

第6次総合計画の策定時に、市民意識調査を行い、その中で重要度・満足度の調査をしている。公共交通の利便性や道路の通行しやすさなどが、重要度が高いが満足度が低くなっているものである。参考資料2では、都市基盤・産業の項目が該当する。

(2) 第6次総合計画の概要について

事務局（企画政策課長補佐）より資料4に基づき説明

● 質疑

(渡辺委員)

市民幸福度について、2031年度の目標値は現状値以上という理解で良いか。

(事務局)

市民幸福度6.77以上は現状値以上となるように設定している。

(渡辺委員)

年代別の市民幸福度を見ると、5、7、8点ぐらいに集中しているように思う。ちょっとしたことで平均点が上がるのではないか。

(市長)

50代の平均幸福度が低いのは、全国的にも同様の傾向がある。またスマホに関するアンケートを実施した際も、50代は幸福度が低く、スマホの使用時間が長かった。50代については子育てと親の介護の両方を抱えるダブルケアなどの課題がある。50代の人を中心とした相談窓口をどこに設けるのが良いのか検討しているところである。この年代の幸福度を高めていくのは難しいと感じている。そのため、現状値の6.77を基準として、今よりも高く持っていくという目標にしている。すべての世代で言えることだが、孤立感が高まっており、孤立感が高いと幸福度も下がる傾向にある。

(新沼会長)

将来人口について、2031年度までに68,000人以上という目標人口を掲げているが、2026年7月1日時点で67,743人と既に計画人口を下回っており、ここから増やしていかなければいけない状況になっている。このことについて、受け止めと今後の政策等教えてほしい。

(事務局)

何もしなければ人口は減っていく一方である。地域の魅力向上や区画整理事業などを行うことで、人口の維持につながると考えている。

(花井委員)

将来人口の部分で、道路や公園の整備など記載されているが、それだけでは子育て世代が来るとは考えにくい。何か具体的な政策があれば教えてほしい。

(市長)

道路や公園の整備については、区画整理事業を行っているので、それを踏まえた記載となっている。工業団地の整備は名古屋岡崎線の沿線、区画整理事業も幹線道路沿いで行っている。また、三崎水辺公園についても2年かけて整備を終えたところである。インクルーシブ遊具を設置し誰でも遊びやすい状態とし、また池の周りについても段差のない歩きやすい状態に整備した。色々な方が来る公園については、整備を進めていく方向である。ただし、これらの整備を進めたからと言って子育て世代が豊明市に来るとは考えていない。南部の人口が増加しており、潜在的待機児童が増えている。民間事業者に頑張ってもらっており、未満児の供給量を増やしているが、まだ足りない状態である。一方で放課後児童クラブについては、需要に対して供給を満たしている状態にあるため、保育園の需要を満たしきれていないのが課題と感じている。医療的ケア児については、要望があれば保育園でも学校でも受け入れる状態にしている。青い鳥保育園については、園を拡張する形で医療的ケア児用のトイレの整備を行っている。学校についても多目的トイレの整備を進めている。これらは自治体として当たり前にやらなければならないことであるため、あえてここには記載していない。

(清水委員)

労働者が集まる団体としての立場から、雇用と人材確保が重要と考えている。担い手不足などと言われているが就業支援や定着支援などの方向性を教えてほしい。工業団地の整備については雇用機会の拡大につながると思うが、やはり人材確保が必要となる。

(事務局)

担い手の確保はもちろんであるが、子連れ出勤の普及やユニバーサル就労支援など働きやすい環境の整備を行っていく。

(市長)

様々な企業の方から相談を受けると、担い手不足という話をよく聞き、今まで外国人を採用していなかった事業者も採用し始めている。そのため市としては外国人の方が住みやすい環境をつくっている。特に豊明団地に外国人が集中しており、豊明団地自治会の皆さまに協力していただいている。また、小中学校の日本語支援にも力をいれており、国際交流協会には大人の方向けにもやっていただいております。全世代で日本語教育をずっとやってきた背景がある。これにより外国人の方はネットワークがあるため、豊明市を選ばれている状態である。豊明団地は日本人も住んでい

るが、外国人がどんどん入居して埋まっている状態である。

(永當委員)

豊明団地は元々入居者がいた状態ではあったが、入れ替わりで外国人の方が増えてきている。特に外国人の方を優先しているわけではないが、大家の立場として日本人も外国人もきちんと住めるようにしなければならないと思っている。

(市長)

就業支援については、商工会を中心にマッチングをしており、一定の成果は出てきているため引き続きやっていきたいと考えている。また福祉的な施策ではあるが、引きこもりの状態にある方々に試しに企業で働いていただいて、マッチしたらそのまま本採用へつなげる取り組みを進めている。協力的な事業者が多く、うまくいっている事例も生じてきており、このような活動も担い手不足の解消へつながっている。

(小島委員)

車いすユーザーとしては道路の改修など満たされている場所とまだ全然通れない箇所などもある。コストをかけているなかでうまくいっている施策とまだ課題が残る施策を教えてほしい。

(市長)

上手くいっている施策は共生交流プラザカラットの整備。旧小学校のためエレベーターがなかったが、車いすやストレッチャーがそのまま入れるエレベーターを設置した。課題が残る部分については、車道と歩道が分かれていない箇所が多く、分かれていても歩道から車道へ行くところで段差が生じている。解消に向けて動いているが、道路は多いため、すべてを行うには予算も工事をできる事業者も職員も足りない。

(経済建設部長)

道路について、車いすで通りやすいような基準に改修してきてはいるが、まだ足りない部分はあると感じている。歩道については街路樹の根上がりもあり、歩行者でも通りにくい箇所がある。道路パトロールなどを行い、そのような箇所の把握に努めている。

(小島委員)

車いすに限らず、施策全体の中で上手くいっている施策と課題が残る施策を教えてほしい。

(市長)

上手くいっている施策は高齢者の外出促進だと思う。これについては、新しい施設をつくるわけではなく、藤田医科大学や各自治会など様々な組織体を巻き込みながら外出促進を促しており、市民の満足度も高い状態である。まちかど運動教室や、健康マージャン、ボッチャなどを行っている。生活支援コーディネーターの市職員が、市民の皆さまの外出促進を促す施策を行っており効率よく運営できている。効率が悪いという観点では、防災関係についてはコストをかけているが、運よく災害

が起きていない状況である。ただし、現状でも全然足りてはいない。市役所を含めた公共施設については、耐震性が元々あるか、耐震工事を終えた状態となっており、コストは大きくかかっている。

(3) とよあけ未来カイギの報告及び進行管理について

事務局（企画政策課長補佐）より資料5，6に基づき説明

● 質疑

（尾崎委員）

未来カイギの中で市長から発言のあった豊明駅のガチャガチャについてお聞きしたい。参加した中では、就労の場が増えることで障がい者の就労の場所も増えると思い、提案の作成を行った。また図書館では昼食を食べる場所がなく、自習に来ている学生は一度家に帰っていると聞く。農村環境改善センターでは一日過ごせると聞くが、図書館はスマホからも離れて過ごせる場所だと思う。

（市長）

未来カイギの中では私が市長になったらというテーマがあり、どのような観点からも意見が出せるようにという例示で豊明駅のガチャガチャ設置を紹介した。豊明駅の通路が広いので、そこにガチャガチャを設置したいと考えている。現在は事業者側が興味を示すのかりサーチしている状況。

（渡辺委員）

未来カイギに参加した人それぞれが問題意識をもっており、短い時間だったが様々な意見やアイデアが出てとても良い時間だった。このようなカイギではアイデアが出てもその場限りで終わることが多い印象だが、市長からその場でこれは既に取り組んでいる、これは難しいなどの判定をいただけたのが良かった。

(4) 第7次行政改革前期推進プランについて

事務局（政策推進担当係長）より資料7に基づき説明

● 質疑

（尾崎委員）

とよあ券について、1，500円がデジタルで3，500円だった。オンラインで出来ない人などが500円になってしまったのはなぜか。グループホームに入居している人でスマホを持っていない人もおり不公平感があつた。

（市長）

とよあ券の配布方法については、長い議論の末結論を出した。LINE 友だち数を増やしたいという市の意図によりデジタル商品券を使用した。すべてをデジタルにすると使えない人もいるため、紙とデジタルで分けている。紙とデジタルについては対象事業者が異なっている。元々は国の施策としてやっているため、お米5キロ購入

できる値段かつお米が買える事業者で使えるように紙の3,500円を設定した。この分については、ほとんどが大手のスーパーやドラッグストアで消費されている。デジタルの1,500円については中小事業者で使えるようにしている。1,500円分についてはデジタルが嫌な人は同額の紙を渡すとしてしまうと紙に流れてしまうため、あえて紙を不利な状態にしている。スマホを持っていない人でも信頼できる人のスマホを借りるなどで出来る状態にはしていたが、一定の方にはそれが負担になったことは否めないため、この事業に対する評価は難しい。

(尾崎委員)

このようにしないとLINEの登録者は増えないと思うので、個人的には賛成だった。

(山田委員)

EBPM についての話があったが、もう少し詳しくどのようにやっていくかを教えてほしい。

(事務局)

施策を行うためには、行政として説明責任があり、根拠が必要となる。例えば駐輪場を整備するためには、駐輪場の利用者数などが必要となるので、そのような根拠に基づいて施策を行っていく。

(山田委員)

定量化できる成果と定量化できない成果があると思う。定量化できる成果だけでは良くないと思い発言させていただいた。

第7次行政改革前期推進プランについて案の通り承認された。

3. その他

審議会については年1回の開催を予定。次回は来年度の同時期の予定。

出席委員 服部力、松本昇、太田里奈（内藤真一代理）、永當 恵三、林宗智、新沼英明、清水哲也、都築圭子、加藤誠、尾崎芳美、山田善彦、糸魚川幸江、花井仁子、渡辺英樹、小島重子

欠席委員 石原慎

市職員 市長、副市長、教育長、行政経営部長、市民生活部長、健康福祉部長
経済建設部長、議会事務局長、教育部長

事務局 企画政策課長、企画政策課長補佐、政策推進担当係長、企画政策課職員
（一社）地域問題研究所1名